

執行される死刑囚の心身の状態は？

死刑を秘密にしたがる国家

死刑について考えてみませんか

東京拘置所のそばで死刑について考える会（そばの会）

4月1日、アムネスティ・インターナショナルが、昨年（2014年）の世界の死刑状況についての調査結果を発表しました。それによると、それによると、昨年に死刑を執行したのは日本を含む22ヶ国で、少なくとも607人が執行されたといえます。「少なくとも」というのは、中国の死刑は国家機密とされていて、処刑件数も明らかにされていないからです。中国では数千人が執行されたと推測されています。

☆☆☆

中国の秘密主義を嘆き、笑う資格が私たちにあるでしょうか。

日本でも、死刑の執行の事実を法務省が発表するようになったのは1998年11月の執行からです。それも人数だけで、執行された人の名前や事件内容を発表するのは2007年12月の執行からでした。

それまでは、法務省が発表する統計資料から死刑確定者の人数をチェックして執行の有無を確かめるしかなかったのです。

☆☆☆

皮肉なことに、死刑が隠されていた時代のほうが、報道関係者は熱心に情報収集に努めていたようです。執行の日に法務大臣が記者会見を開き、執行された人の氏名やその事件の概略などを発表することが慣例となると、会見の場で提供された資料を「広報」するだけの記事が多くなりました。

☆☆☆

情報公開の問題として、日本では執行の事前告知がないことが国際人権機関から強く批判されています。死刑囚は執行の日の直前まで自分が処刑されることを知らされないのです。家族にも執行後に伝えられるので、最後のお別れを語る機会もありません。

法務省は事前に告知をすると「自殺」されてしまうおそれがあり、「死刑」ができなくなる、というのですが……

☆☆☆

死刑囚の現在の状態が不明なことも問題です。家族や再審の弁護人らが面会して交流できていれば、まだよいのですが、死刑と向き合う長い拘禁生活は心身を傷つけ、誰との面会にも応じなくなってしまう人も出て来ます。冤罪死刑囚・袴田巖さんもそんな状態が続いていました。オウム真理教事件の教祖とされる死刑囚は、とても執行できるような心身状態ではないと噂されています。

日本の死刑確定囚の姿は「国家機密」なのでしょうか。